

7月10日現在、草丈はすべてのほ場で平年並か平年より長く、莖数は南方町の「ひとめぼれ」を除いて平年より少なくなっています。葉色は移植時期が遅かった「だて正夢」以外のほ場で平年並から淡くなっています。幼穂はすべてのほ場で確認でき、「だて正夢」以外は平年より早く幼穂形成期に達しています。

2 今後の管理

(1) 生育ステージの予測

管内の過去5か年平均の出穂期は8月1日頃です。今年も同時期になる見通しです。

生育ステージの予測値（7月10日現在）

移植日	5月1日	5月5日	5月10日	5月15日	5月20日	5月25日
幼穂形成期	6/27~7/1	6/29~7/3	7/1~7/5	7/4~7/8	7/8~7/12	7/11~7/15
出穂期	7/23~7/27	7/25~7/29	7/27~7/31	7/30~8/3	8/3~8/7	8/6~8/9

※主稈葉齢予測モデル（普及に移す技術第80号）を用いた予測値。移植時葉齢を2.5葉~3.5葉として予測。
平均気温は7月9日までの米山アメダスの実測値。

👉 幼穂の長さとお穂までの日数の目安

発育過程		出穂前日数	幼穂長	葉耳間長
幼穂形成始期		25日前	1~2mm	
減数分裂期	始期	15日前	3~4cm	-1.0cm
	終期	10日前	8~10cm	±0cm

(2) 水管理

幼穂形成期に達したら、中干しを終了し間断かん水を行い、根に酸素と水分を与えましょう。
ただし、日平均気温20℃以下が数日続く場合や最低気温が17℃以下となる場合は、障害不稔が発生する危険性が高くなりますので、水深10cm以上に湛水して幼穂を保温し被害の回避に努めてください。

(3) 追肥

本年のアメダス（米山）の3、4月積算降水量は143mmでほぼ平年並となっており、乾土効果の影響は小さく、土壌窒素発現量は平年並と見込まれます。

表 追肥時期別の施肥量

品 種	幼穂形成期（出穂25~20日前） ＜幼穂長：1~2mm＞		減数分裂期（出穂15~10日前） ＜幼穂長：3~12cm＞	
	窒素成分量	現物量 (NK化成C68号の場合)	窒素成分量	現物量 (NK化成C68号の場合)
ひとめぼれ、金のいぶき	1.0kg/10a	6.3kg/10a	1.0kg/10a	6.3kg/10a
ササニシキ	—	—	1.0~1.5kg/10a	6.3~9.4kg/10a
だて正夢	—	—	2.0kg/10a	12.5kg/10a
つや姫	2.0kg/10a	12.5kg/10a	—	—
つきあかり	1.0~2.0kg/10a	6.3~12.5kg/10a	1.0~2.0kg/10a	6.3~12.5kg/10a

幼穂形成期追肥は下位節間の伸長につながりますので、草丈が長い場合は、幼穂形成期追肥を避け、減数分裂期に追肥しましょう。

環境保全米では、栽培期間中(育苗+本田)に使用できる化学肥料の窒素成分量が決まっています(合計3.5kg/10a)ので、これまでの施用量を計算して追肥量を決定しましょう。

(4) いもち病対策

県病害虫防除所発生予報第6号(7/10発行)によると、**葉いもち**の発生は
発生時期：平年並(7月第3半旬)
発生量：やや多の予報

いもち病の出現状況については平年並で、県南部では本田での発病が確認されています。

特に、茎数が多く、葉色の濃いほ場は葉いもちの発生に注意しましょう。発病が見られたときには速やかに茎葉散布剤で防除してください(環境保全米Cタイプで発生がみられた場合はJAにご相談下さい)。

(5) 紋枯病対策

昨年発生したほ場では、本年も発生することが懸念されます。要防除水準(収量が5%以上の減収を想定して防除する場合は、穂ばらみ期の発病株率が「ひとめぼれ」で18%、「ササニシキ」で10%です。(環境保全米Cタイプで防除を検討する場合は、JAまでご相談ください。))。

防除時期：出穂直前(穂ばらみ期 7月下旬)

(6) 斑点米カメムシ類の防除

イネ科雑草(特にイタリアンライグラス等)の多い畦畔では、斑点米カメムシ類が誘引されて産卵・繁殖する場所となり、斑点米被害につながる可能性が高くなります。計画的に畦畔の除草を行いましょう。

ただし、出穂期前後の草刈りは水田内に斑点米カメムシ類を追い込むこととなりますので、畦畔草刈りは水稻の**出穂15~10日前までに終了**するようにしましょう。

今年の管内の平均出穂期は**8月1日頃**になる見通しですので、**7月23日までに草刈りを終了**するようにしましょう。

(7) 稲こうじ病、墨黒穂病対策

いずれも前年に田面に落下した厚壁胞子が越冬し、発芽することで感染します。前年発生が多かったほ場では土壌菌量が多いため、本年も発生するリスクがあります。

出穂前に降雨が多いと発生が多くなる傾向があります。

前年に多発したほ場では、出穂10~14日前に粒剤による予防防除を行いましょう。

【直播栽培】

1 生育状況

7月10日現在、3品種とも茎数は平年よりかなり少なくなっています。

葉色は、「ひとめぼれ」は平年並、「ササニシキ」は平年よりやや濃く、「つきあかり」は平年よりやや淡くなっています。

「つきあかり」は平年より早く幼穂形成期に達しています。

アメダス資料による葉いもちの感染好適条件の出現状況(BLASTAM 令和5年度)

日付	駒ノ湯	気仙沼	川渡	築館	米山	志津川	古川	大衡	鹿島台	石巻	女川	新川	塩釜	仙台	白石	蔵王	亘理	丸森
6/18	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/19	-	-	-	-	-	-	-	?	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-
6/20	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/21	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/23	△	-	-	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	△	-	-	△
6/24	-	-	-	○	△	△	○	○	-	△	○	○	○	●	○	○	-	○
6/25	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/26	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/27	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/28	○	●	●	-	●	●	●	-	-	-	-	●	-	-	●	-	-	-
6/29	-	●	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
6/30	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●	-	●	-	-	-	-	-
7/1	●	●	●	●	-	●	●	-	●	-	-	●	●	-	-	●	-	-
7/2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	●
7/3	△	△	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/6	○	●	●	●	●	●	●	●	-	-	●	-	-	●	●	●	●	●
7/7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/8	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
7/9	△	●	●	●	●	●	●	●	●	-	●	-	-	-	-	●	-	-

●	好適条件	葉いもちの大量感染に好適な気象条件(葉面湿潤時間10時間以上、平均気温15~25℃、前5日間の平均気温20~25℃)が出現した日
○	準好適条件1	当日の条件は満たしているが、前5日間の平均気温が条件から外れている場合
△	準好適条件2	葉面湿潤時間の長さのみ好適条件を満たしている場合
-	好適条件なし	
?	判定不能	

【水稻生育調査結果(乾田直播)】

No.	品 種	栽培タイプ	調査地点	播種月日	苗立ち本数 (本/㎡)	6月30日			7月10日			幼穂長(mm)	
						草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色(GM)	草丈 (cm)	莖数 (本/㎡)	葉色(GM)		
1	ひとめぼれ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月24日	174	45.4	474	35.8	62.7	510	36.6		
						前年比・差 97%	101%	125%	-3.6	112%	99%		-1.1
2	ササニシキ	ブヲ耕 グレンドリル 体系	米山町 (中津山)	4月20日	113	34.0	258	37.7	48.4	439	39.7		
						前年比・差 141%	82%	79%	1.1	92%	87%		2.1
3	つきあかり	ブヲ耕 グレンドリル 体系	豊里町 (鞆波)	4月24日	137	50.8	328	39.8	66.7	340	38.1	1.3	
						前年比・差 109%	109%	124%	-0.7	101%	89%	-1.3	1.3
						96%	98%	64%	1.1	103%	65%	-0.5	1.0

※平年値は、ひとめぼれは過去5か年(平成30年～令和4年)の平均値。
 ※ササニシキ、つきあかりは調査3年目のため過去2か年の平均値を使用。

2 今後の管理

(1) いもち病対策 ～発生に注意!～

6月下旬以降、広域で感染好適条件が出現しています。今後気温が高く推移する予報ですが、ほ場を注意深く見回り、7月下旬にコラトップ粒剤等を施用し、穂いもちを予防しましょう。

(2) イネツトムシ(イチモンジセセリ)

イネツトムシの葉の食害による減収被害は大きく、防除の対象になるのは8月上旬頃に発生する第2世代幼虫です。

防除適期：第2世代若齢幼虫発生盛期(7月下旬～8月上旬)

株当たり0.5個以上のツトが見られる場合は防除を行いましょう。

防除適期は若齢幼虫期の短い期間に限られます。若齢幼虫の形成するツトを見逃さないように注意してください。



図：若齢幼虫の形成するツト

東北地方 1か月予報 (07/08～08/07)		2023年07月06日14時30分 仙台管区気象台 発表	
特に注意を要する事項		期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 07/08～08/07	天候	東北日本海側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、平年と同様に晴れの日が多いでしょう。東北太平洋側では、期間の前半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。期間の後半は、天気は数日の周期で変わって来ます。	
	気温	平均気温は、高い確率70%です。	
	降水量	降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。	
1週目 07/08～07/14	気温	1週目は、高い確率80%です。	
2週目 07/15～07/21	気温	2週目は、高い確率70%です。	

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	東北地方	向こう1か月 07/08～08/07	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		1週目 07/08～07/14	10% (低い) 10% (平年並) 80% (高い)
		2週目 07/15～07/21	10% (低い) 20% (平年並) 70% (高い)
		3～4週目 07/22～08/04	30% (低い) 30% (平年並) 40% (高い)
降水量	東北地方	向こう1か月 07/08～08/07	20% (低い) 40% (平年並) 40% (高い)
日照時間	東北地方	向こう1か月 07/08～08/07	40% (低い) 30% (平年並) 30% (高い)

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

6月～8月は「農薬危害防止運動」期間です。農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。